

平成20年度事業報告

(平成20年4月1日－平成21年3月31日)

I. 会員数 (平成21年3月31日)

(1) 名誉会員	4名
(2) 正会員	
平成20年3月31日会員数	1,353名
平成20年度新入会員数	90名
平成20年度退会者数	57名
内訳 希望退会者	57名
物故者	0名
正会員現在数	1,386名 (33名増)
(3) 維持会員	
平成20年3月31日維持会員数	107社
平成20年度入会社数	0社
平成20年度退会社数	4社
維持会員現在数	103社 (4社減)

II. 機関誌送本および販売数 (各号につき)

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	4冊
	正会員	1,099冊
	維持会員	265冊
国外	正会員	7冊
	小計	1,375冊
(2) 販売数		38冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	10	10冊
国外	55	55冊
	小計	65冊
合計機関誌送本数		1,478冊
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

Ⅲ. 第 55 回通常総会

開催年月日： 平成 20 年 5 月 15 日

開催場所： 仙台国際センター

Ⅳ. 理事会、評議員会

(1) 理事会 2 回開催

① 定例 開催年月日： 平成 20 年 5 月 14 日

開催場所： タワーホール船堀

② 定例 開催年月日： 平成 20 年 12 月 2 日

開催場所： タワーホール船堀

(2) 評議員会 1 回開催

開催年月日： 平成 20 年 5 月 14 日

開催場所： タワーホール船堀

Ⅴ. 定期学術集会の開催

第 55 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 平成 20 年 5 月 15 日（木）～17 日（土）

会 場： 仙台国際センター

会 長： 笠井 憲雪（東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設）

参加者： 1,311 名

Ⅵ. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 20 年 4 月 1 日	57	2	一部収益事業
平成 20 年 4 月 1 日	57	3 (サプリメント号)	〃
平成 20 年 7 月 1 日	57	4	〃
平成 20 年 10 月 1 日	57	5	〃
平成 21 年 1 月 1 日	58	1	〃

Ⅶ. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第 20 回学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (1 名)

長 文昭

2) 2007 年 Experimental Animals 最優秀論文賞

森 政之、澤下仁子、樋口京一：

「実験用ラットにおける *Lss* 遺伝子の機能的多型」

(2) 2007 年日本実験動物学会国際賞を表彰した。

・受賞者 (8 名)

マレーシア : Goh Yong-Meng
シンガポール : Jason So Villano
インド : MJ Jelald Mahesh Kumar
タイ : Wilai Thongdeejaroen
中国 : Yuyuan Ma
フィリピン : Mark Pierre S. Dimamay
台湾 : Li Chao-Chin
韓国 : Seung Hyeok Seok

(3) 第 21 回学会賞受賞者を選出した。

1) 功労賞 (1 名)

豊田 裕

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

松本耕三：

「ラットの先駆的遺伝子マーカー開発と疾患モデルラットの遺伝解析研究」

3) 奨励賞 (2 名)

越後貫成美：

「実験動物を用いた顕微授精技術の応用」

林元展人：

「*Pasteurella pneumotropica* および *Bordetella hinzii* の実験動物に対する病原性と
その検査法に関する研究」

4) 2008 年 Experimental Animals 最優秀論文賞

松井謙一、太田 毅、小田知洋、笹瀬智彦、上田順久、美谷島克宏、益山 拓、
篠原雅巳、松下睦佳：

「SDT (Spontaneously Diabetic Torii) fatty ラットにおける糖尿病性合併症」

(4) 2008 年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

・受賞者 (5 名)

シンガポール : Keefe Chng
タイ : Shutipen Buranasinsup
中国 : Jialin Liu
フィリピン : Plebeian B Medina
台湾 : Yu-Chung Chang

VIII. 名誉会員の推薦

「名誉会員推薦に関する細則」に基づき、理事会は今道友則先生、菅野 茂先生を名誉会員候補者として総会に発議することを議決した。

IX. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、疾患モデル委員会、国際交流委員会、広報委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規程等検討委員会、マウス・ラット感染対策委員会、教育・研修ワーキンググループ、学会誌刷新検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

X. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力した。
- (2) 社団法人日本実験動物協会、日本実験動物技術者協会、日本実験動物環境研究会およびその他の国内外関連学会・協会の活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）の事業に協力した。
- (4) アジア実験動物学会連合（AFLAS）の事業に協力した。
- (5) 米国実験動物学会（AALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流をした。
- (6) 国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会等の活動に協力した。
- (7) 財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターの活動に協力した。

XI. その他

- (1) 機関誌投稿論文の受付および査読審査を電子化した。（編集委員会担当）
- (2) 第1回疾患モデルシンポジウムを開催した。（疾患モデル委員会担当）
- (3) 平成20年度維持会員懇談会を実施した。（財務特別委員会担当）
- (4) 第55回総会期間中に4つのLASセミナーを開催した。（教育・研修ワーキンググループ担当）
 - ① 遺伝子改変動物の命名規約
 - ② 微生物モニタリング
 - ③ 胚と精子の凍結保存
 - ④ 実験小動物の麻酔の基礎と応用
- (5) 公益法人化について検討した。